

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日平成 22 年 7 月 14 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677000129号
法人名	社会福祉法人 三峰会
事業所名	グループホーム 回生園
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町家戸原3063番地 (電話)099-477-2585
自己評価作成日	平成22年6月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス等があり、敷地内の一角にグループホーム回生園がある。法人内の利用者間の交流は行事等を活用し行われている。また、周囲を田園に囲まれたのどかな環境の中にある。ホームは木造平屋作りで食堂兼居間を中心に、各居室やトイレが見守りしやすくなっている。利用者においては、認知症進行防止のための「くもん学習」を取り入れており、9名中8名の方が利用されている。また、職員は利用者一人ひとりがのびのびと生活できるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大崎町ののどかな田園地帯にあり、法人は介護老人福祉施設、デイサービスを併設して地域の高齢者福祉を担っている。ホーム内に活気があり、利用者の表情が明るく、元気な声が聞かれるグループホームである。ホームでの取り組みの一つに「公文学習」を取り入れており、利用者は毎日公文の時間を楽しみにしている。また、地域の文化祭やあすばる展に利用者とともに作成した作品を出展したり、隣接するデイサービスでの陶芸教室で作品を制作するなど、利用者の楽しみでもあり、生きがいにもなっている。法人の施設やデイサービスの催し物(保育園児との交流、踊り、唄など)に参加し、地域の方々との交流の場やなじみの人との関係継続の支援にもつながっている。職員は、人生の先輩として利用者から日々の生活の中で教わることも多く、ともに支え合う関係を築いている。職員の離職も少なく、職員間のコミュニケーションが図られ、利用者、家族との信頼関係も構築されている。家族会も活発で、離れていても家族の絆を大切にしたいとの思いから、毎回、多くの参加を得て、3ヵ月に1回の割合で外出のレクリエーションも兼ねて行なわれている。開設7年目になり、今後は、ホームの力を活かし認知症サポーター養成講座を広げていきたいとの目標をもっており、地域密着型サービスとして更なる取り組みが大いに期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. 理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者の方が地域社会の一員としての自覚をもてるように、職員一同が理念を共有し実践に努めている。</p>	<p>法人の理念と、地域密着型サービスの意義を踏まえた、グループホーム独自の理念を職員全員で作成している。理念は玄関とホールに掲示して、重要事項説明書にも明記している。グループホーム会議、内部研修など、折にふれて理念を確認している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町の文化祭や学校行事等に積極的に行っているが、昨年度はインフルエンザの流行により交流等が制限された。</p>	<p>利用者とともに制作した作品を町の文化祭、あすばる展などに出品したり、小中学校の運動会の見学に出かけたりしている。中学生の職場体験学習の受け入れや、隣接のデイサービスを利用の友人知人との交流など支援している。</p>	
3		<p>事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている</p>	<p>今年度より、認知症サポーター養成講座を計画しており、地域住民の認知症の理解を広め在宅介護の支援を図りたい。第一回の講座は施設を中心に開催した。利用家族の参加もあった。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の割合で運営推進会議は行なわれており、ホームの行事計画やサービスの情報提供を行い、資質の向上を図っている。</p>	<p>民生委員、家族代表、利用者代表、行政などの参加を得て2カ月に1回開催している。ホームの状況報告、行事計画、外部評価の結果報告など行い意見をもらっている。また、ヒヤリハット事例の報告と対策についての話し合いなど、ホームの安全対策やサービス向上に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との関係は密にするよう心がけており、情報の共有を行ない協力関係を大事にしている。	日頃より、報告、相談などで連携を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に拘束委員会が月1回の割合で開催されており、ホームにおいても身体拘束しないケアに向けて取り組んでいる。	法人の拘束委員会の研修内容を、ホーム内でも全職員が知識を共有するように、会議録の回覧を徹底している。ホームのまわりにセンサーが設置されており、外出する利用者には職員がさりげなくついて行き見守っている。日中は施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修等において勉強会などを行い、身体的・精神的・言動的虐待が行なわれないよう努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修等において勉強会などを行い、利用者の権利や尊厳を重視し、権利擁護・成年後見制度等の勉強会を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居にあたり利用契約書に基づき十分なる説明と理解をして頂いている。また、利用に関する事項等の改定等が生じた場合は公文書化し、その都度了承してもらっている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者やホームのサービス向上を図るための意見や助言・提案を傾聴し更なるサービスの向上に努めている。</p>	<p>来訪時、家族会時、毎月のモニタリング報告時などに、家族から意見・要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については運営に反映させている。利用者からは日常の関わりの中で、会話から要望などを引き出すようにしている。家族への報告は毎月、ホーム便りに個々のホームでの状況を写真入りで報告している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全職員と園長、事務長、部長を交えた月1回のグループホーム会議を開催し、行事計画や利用者情報等の交換や意見の場を設け、職務に反映させている。</p>	<p>会議で意見をもらったり、気づきやささいなことも都度管理者と話をしている。職員間で共有すべき内容については業務連絡簿を活用して情報の共有を徹底している。また、入居については全職員で入居の検討委員会を開いて決定している。就業環境が整っており、職員の離職が少ない。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務態勢においては、職員の希望休を2回までとし、常勤は週40時間の遵守である。また、常に常勤が1名は勤務にはいつて、パート職を補佐している。</p>		

鹿児島県グループホーム回生園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年2回の面接カードにおいて自己目標と実績を行い啓発を行っている。また、各研修等においても積極的に受講させ、資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隈地区認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、認知症ケアに携わる者としてサービスの向上をめざしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談および入居前の契約時に本人と家族に来園していただき、環境の確認と順応性を見極めを本人にしてもらい、安心して過ごせるように意見や要望を聞き入れている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族との連携は特に重要であることを職員一同認識しており、信頼関係を築くように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居にあたってのモニタリングを行い現状把握を経て、家族・本人の意向を聞きケアプラン作成へ反映させ、サービスの提供をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>認知症を患っている高齢者が共同生活を円滑に行なえるように職員は信頼関係を築こうと日々努力を行なっている。</p>		

鹿児島県グループホーム回生園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>認知症高齢者が新たな環境の中で生活を余儀なくされている事を考慮し、職員と家族との信頼関係の構築や協力を行ない、安心して過ごせるように努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも、入居時に馴染みの品や家具等を持ち込んで頂いたり、知人家族等の面会時間は原則として夜の8時までとしている。</p>	<p>利用者の友人、知人を把握してデイサービス利用時に会いに行くことを介護計画にも入れている。また、友人、知人が訪ねやすい雰囲気作り、お墓参りやなじみの美容院に送り迎えするなど、なじみの人や場との関係継続の支援も行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常の生活の場になっている食堂兼ホールでの配席は、人間関係の構築の場として特に重要視し、配慮した工夫を必要ごとに行なっている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用 契約 が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>介護度が重度化した場合、ホームから特別養護老人ホームなどの転居後は定期的に訪問し、その後の様子観察などを行っている。また、家族との関係も同様としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>計画作成担当者は、ケアプランを作成及び見直し時期には必ず、本人の意向を傾聴し、家族の意向等を勘案してからサービスの計画としている。</p>	<p>一方的な決定はせず、こちらから話題を投げかけて言動や表情などから把握して本人本位に検討している。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者の1人ひとりの人生の背景を考慮し、その人それぞれに添ったケアサービスの計画と実践に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個別記録簿に生活の様子として、本人の行動や言語の記入を行い現状の把握としている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の現状把握を行い、家族との連携を密に図りながら、本人の意向を重点におき、職員一同の意見を交えながら、入居者が安心して過ごせるようなサービス計画の立案を行なっている。</p>	<p>なじみの人との関係継続の支援や、メリハリのある生活を送れるように、目標など個々に具体的な援助内容が作成されている。分かりやすい介護計画で、職員のケアの統一が図られている。また、毎月モニタリングを行って、現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録において生活の様子に一日の生活状況を時間置きに記入し、気付きや特記事項の場合には特に連絡簿に記入するようになっており、職員一同が毎日閲覧するようになっている。状態変化時の対応及びケアプラン変更の参考としている</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の心身および身体の変化に合わせて柔軟に即対応するように職員一同が心掛けている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者のほとんどが地域出身の方で地域に馴染んだ環境を活用し安心して過ごせるように努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携は、十分に行っており、緊急性及び急変時の対応や連絡は的確に行い、受診時は必ず、職員が行っている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診の際は職員が付き添い、随時、家族に結果を報告している。また、協力医の往診もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の健康管理においての相談や健康上の異常は即、看護職に相談を行い対応している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院による医療機関との連携は、入院後も随時情報の把握として常に面会時に行い、医療関係者との情報交換を行っている。また、退院を想定した援助にも努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホームでは、重度化してきたら併設の特別養護老人ホームに介護度3で入居申請を行い、重度化で設備的対応不可能と判断した時に転居している。</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けたホームの方針は、説明して、納得してもらってから入居している。また、利用者、家族が困らないように早目の対応で、ホームでできる最大限の支援を行う方針である。</p>	<p>重度化や終末期に向けた具体的な指針の作成は、取り組みの途中のため、ホームでできる最大限の支援を職員全員で話し合い、明文化に期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>グループホーム内研修等を活用し、利用者に対する急変時対応等の研修を行っている。</p>		

鹿児島県グループホーム回生園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人合同での災害訓練を2回行い、グループホーム単独の火災避難訓練も重点的に年2回の計画である。</p>	<p>法人の敷地の一角にあり、隣接する施設とは職員も含めて協力体制が構築されている。今年度は更なる強化策として地域の消防分団との協力体制も検討している。</p>	<p>利用者のより安全で安心な暮らしの確保のために、あらゆる場面を想定した現実的な避難訓練を重ねて行うことが期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修やミーティングの場を活用し職員一同が、お客様満足度100%を目指した話し合いなどを行い、利用者への接遇向上に努めている。	年間の研修計画の中にも接遇、個人情報、権利擁護が組み立てられ、資質の向上に向けて取り組んでいる。マンネリ化したケア（ことば使い、声かけなど）を防ぐために、研修の徹底を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が共同生活を強いられていることを勘案し、定期的に本人の希望を傾聴して希望が叶うように援助を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせるのではなく、基本的に利用者の生活リズムに職員が合わせるように心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視し、在宅での服装に近い物を嗜んでもらっている。また、それに向けての支援も行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な嗜好調査を行い好みを考慮した献立となっており、職員と利用者になるべく調理や片付けなどに関わるようにしている。	調理手伝い、配膳、お茶担当などそれぞれ役割を持って取り組んでいる。晩酌も特に制限せず、利用者の希望に合わせた支援を行っている。誕生会にビールを提供したり、個々の希望に合わせて病院受診の帰りに外食をするなど、食事を楽しむことができる支援を行っている。	

鹿児島県グループホーム回生園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養管理は特養の管理栄養士により行われている。ホームでは、一日の水分摂取量・食事摂取量の管理を行っている。また、ミキサー食や刻み食の対応も同様に行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは毎食後の歯磨き援助を必ず行い、居宅療養管理として歯科医の定期的訪問診療等がある。また、法人内の歯科衛生士による口腔管理も行われている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>ケアプランに基づき、排泄全介助の方1名を残し他の方は、一部介助が数名おり、本人の自立を促すような声かけと援助を実施している。また、排泄管理を時間毎に確認するようにしており援助を行っている。</p>	<p>排せつチェックシートにより個々の排せつパターンを把握して早目の声かけ誘導による排せつの自立を支援している。基本的におむつ使用はしない方針である。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘症の方はかかりつけ医と相談の上服薬管理を行い、排泄管理表を用いて、排便コントロールの援助を行っている。また、食事には、管理栄養士の献立に基づき管理し、繊維物を多く取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は曜日の関係なしに、一日おきに入るようになっており、毎日希望の方にも対応している。ただし、入浴時間は午後から夕食前までとしている。	浴室の看板には「一日の最後、楽しみの湯」と、利用者が考えて書いたものが掲げている。基本は一日毎だが、本人の希望で毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。温泉施設で温泉と食事会を兼ねた家族会も年1回行っており、利用者、家族の楽しみでもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の行事は、主に体操とレクリエーション、午後からのくもん学習と入浴で、それ以外の時間は、ほとんど自由な時間として利用者に提供している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一日分が個人毎に配分しており、服薬確認チェックも随時行っている。服薬の変更や追加があるときは連絡簿に記入し職員が確認するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿った役割として洗濯物干しや整理・ゴミ捨て・掃除・炊事等がある。また、花の水差しも行っている。気分転換に散歩を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個別で散歩を希望されるときには随時対応するように努めており、本人希望の外出は家族の協力をもらい外出するようにしている。</p>	<p>買い物と一緒にいたり、散歩やドライブなど日常的な外出を支援している。また、行楽として外出の年間計画も立てており、花見、茶摘み、美術展見学、花火見学、梨・ぶどう・ミカン狩りなどを計画している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金を持たれている方が半数ほどおられ、うち買い物をされ自己管理できる方は1名である。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知人との連絡を希望されるときは常に援助を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活の場としての環境は、利用者が落ち着けるような飾り付けや雰囲気作りを図っている、</p>	<p>広いリビング兼ダイニングからは、外のテラスに出ることができ開放感がある。居室の配置など職員が見守りしやすい作りである。畳の部屋は公文学習の場にもなっている。廊下にもソファが置かれ、利用者が居心地良く過ごせる配慮がされている。</p>	

鹿児島県グループホーム回生園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>通路端の南側2カ所にソファを設置、居間にもソファがあり思い思いの場所で過ごせる。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>泊まりの部屋はないが、利用者の居室は個人の使い慣れた家具等を設置し、安心して過ごせるように配慮している。</p>	<p>家族と話し合っ、居心地良く過ごせるように居室を工夫している。夫婦で入居している利用者は、居室間で行き来できるようにプライバシーが保たれている。テレビ、冷蔵庫、ベッド、椅子、テーブル、タンス、趣味の本や書き物などそれぞれに個性的な居室作りがされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内環境としては、居間兼食堂を中心に広々としており、バリアフリー構造となっている。また、歩行しやすくトイレも使いやすい場所に4カ所設置してある。</p>		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
		3	利用者の1/3くらいの
		4	ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		3	たまにある
		4	ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36,37)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ全ての家族と
		2	家族の2/3くらいと
		3	家族の1/3くらいと
		4	ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ毎日のように
		2	数日に1回程度ある
		3	たまに
		4	ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1	大いに増えている
		2	少しずつ増えている
		3	あまり増えていない
		4	全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない